

直言

注目の日米首脳会談が終わって、共同声明と「共同新聞発表」が発表された。先週この欄でも触れたように、今回の日米会談は、懸案なき首脳会談であったにもかかわらず、

最近のアジアの国際環境の変化を考慮すれば、きわめて重要な時期に開催されたものであった。

発表された二つ

の共同文書は、この点で、きわめて包括的に問題を語っており、格調も高いものである。野党各党は、例によって、日米体制の強化に反駁し、注目された朝鮮半島問題では、「韓国の安全が朝鮮半島における平和の維

持にとり緊要」と表現されたことに強い反撥を示している。戦後三十年、外交政策における野党の反対パターンは一貫してきたが、現代の国家が三十年間も平和を保持できたという事実のまえに、その反撥の根拠は脆

かぎり、きわめて現実主義的であったことである。その背後には、宮沢外相はじめ外務事務当局の並々ならぬ努力があったと思われる、そのことは共同文書にもにじみ出ている。むしろ、三木首相は何を語り出すかわか

三木首相の「造反」？

なかじま 中嶋

みねお 嶺雄

(もう)い。

むしろ多くの人びとが意外であつたのは、訪米前、宇都宮徳馬氏を北朝鮮に送つたと見られ

たり、「歴史の流れ」といった哲理を好む三木首相が日米会談で示した内容は、共同文書を見

るには、中東問題や全欧安保問題で多忙なアメリカ側の都合だけではないのかも知れない。そうした状況のなかで、五日

夜、三木首相が永年の、私設通訳、国弘正雄氏だけを伴って、フォード大統領と、密会する

というハブニングが起つた。このハブニングは、外務事務当局のまったくあずかり知らないものだったそうだが、それはたんに形式にこだわらないことを示そうとした三木首相のポーズではなく、首相自身の「造反

ではないか」という疑問から事務当局ががちりまわりを固めていた、といえなくもない。首脳会談といっても、合計二時間、通訳の時間があるから二回で正味

一時間なのだが、このようにタイトな予定が組まれたのも、あ

ることは、中東問題や全欧安保問題で多忙なアメリカ側の都合だけではないのかも知れない。そうした状況のなかで、五日夜、三木首相が永年の、私設通訳、国弘正雄氏だけを伴って、フォード大統領と、密会するというハブニングが起つた。このハブニングは、外務事務当局のまったくあずかり知らないものだったそうだが、それはたんに形式にこだわらないことを示そうとした三木首相のポーズではなく、首相自身の「造反ではないか」という疑問から事務当局ががちりまわりを固めていた、といえなくもない。首脳会談といっても、合計二時間、通訳の時間があるから二回で正味一時間なのだが、このようにタイトな予定が組まれたのも、あ

(東京外大助教授)